



本年4月、福井工業大学の第11代学長に掛下知行学長が就任しました。

その掛下学長がキャンパスを飛び出し、「人材育成教育」「大学間連携」「産学連携」

などをテーマに、各界のゲストとクロストークを展開。

ゲストと共に、若者、地域へ熱いメッセージを贈ります。



「ものづくりは、

街づくりの発想」が大切。

福井はその絶好の場です。

そうですね。

大阪大学との

協定も力に、「福井モデル」を

育てていきたいですね。

福井工業大学  
学長  
掛下知行

大阪大学・大学院  
工学研究科  
研究科長・工学部長  
田中敏宏氏

写真：大阪大学 吹田キャンパス

福井工業大学と大阪大学工学部および大学院工学研究科は、本年7月1日、「教育研究交流に関する協定」を締結しました。両大学は以前より、大学間の連携や交流を図ってきましたが、掛下知行学長の着任をきっかけに、人材育成や地方創生を見ずえた、さらなる教育研究交流を進めることになりました。今回は、大阪大学・大学院工学研究科の研究科長・工学部長である田中敏宏氏と、同大学出身の掛下学長が、「国立大学（国立大学法人）と私立大学の連携」、それを通じた「人材育成教育」や「福井モデルのものづくり」について話し合いました。

両大学に  
求められる、  
社会や地域の  
課題解決へ。

掛下 「教育研究交流に関する協定」を締結させていただき、ありがとうございます。私は大阪大学・大学院工学研究科の前研究科長・工学部長を務め、田中先生と同じ分野の研究をしています。今回の対談は、マネジメントや研究者、教育者の立場から、両大学が取り組む人材育成教育や産業界への貢献など、将来ビジョンや夢も含めて大いにお話しさせていただきたいと思っています。

田中 よろしくお願いたします。掛下先生は工学研究科長の時代、グローバルな人材育成や国際交流のプロジェクトをリードされ、長期的な視野でアジアを舞台とした「グローバルキャンパス」を構築されました。そんな掛下学長のリーダーシップのもと、福井工業大学とのさまざまな連携に期待しています。

掛下 「グローバルキャンパス」の構築は私だけでなく、田中先生をはじめ多くの先生方と進めてきた事業です。ではまず、大阪大学の人材育成教育の考え方についてお話しいただけますか。

田中 大阪大学の強みは、産学の連携力です。2011年からスタートした協働研究所は、企業との研究組織を大学内に誘致し、多面的な産学協働活動を展開しています。現在、大学全体で83社、工学研究科で22社が参加し、産学の双方で高度な人材育成を目指しています。これは、本大学の工学研究科が進めている「テクノアリーナ」構想にも関係しており、専門分野の研究を超え、国内、さらには地球規模の社会的課題に応えようとする取り組みです。

掛下 なるほど。福井工業大学も含め、大学機関に求められているのは、すべての学問を結び付け、「少子高齢化」など社会の大きな課題解決に向かうことです。基礎学問や研究はしっかりと深めていかなければいけません。大学は社会に貢献する人材を育成する必要があります。

田中 まさしく、その通りです。工学の範囲は現在、単品のものづくりにとどまらず、例えば自動運転車の開発に取り組み、合、自動車だけではなく、道路、通信などを含め、「快適な街づくり」という発想がなくてはなりません。電気、建築、医学など専門分野は進んでも、「循環型の街づくり」や「少子高齢化に備えた街づくり」といった社会的課題を解決するというゴールを意識しなければいけません。

掛下 大阪大学が取り組んでいる「テクノアリーナ」構想が全国版だとすると、私たちが福井工業大学が目指しているのは、「テクノアリーナ」構想の「福井版」といえますね。福井には、世界的にユニークな技術を持つ企業が多いのが特徴です。また自然が豊かなことから、福井の強みといえる地域のカラーを生かし、「福井モデル」と呼ばれるような特色ある産業づくりへ貢献する人材育成に取り組んでいきたいと考えています。

田中 そうですね。本大学も福井工業大学も目指すところは「社会への貢献」という点で同じです。掛下先生や私の専門分野である金属分野を例に挙げると、日本は自動車のパネルなどに使う鋼（は）が、ステンレス鋼などに使われる銅部品など、世界各国がまねてきけない技術を持っています。福井にも高機能繊維をはじめ、こうしたものづくりの強みがあると思います。その技術を束ねて地域として発信していくことが、これからの課題なのではないでしょうか。

掛下 福井の繊維や眼鏡といった地場産業の技術力は高いものがあります。その技術を企業、さらには県をはじめ地方公共団体とも連携していくことで、産学連携の一步先を進めていきたいと思っています。

田中 福井工業大学は、原子力関連学科を持つ特徴ある私立大学です。いまお話しした「宇宙×IT事業」も含め、お互いの特色を生かしながら連携を図ることには大きな魅力です。大阪大学と交流が深い東南アジアの各国は現在、原子力発電所の計画を推し進めています。その東南アジアからの留学生が、福井の原子力施設で学ぶ機会にもつながれば幸いです。

掛下 それでは、協定締結の展望について話をしたいと思います。福井工業大学は工学部に加え、

情報・経営デザインなどが融合した環境情報学部、スポーツ健康科学部の3学部があり、地域社会に貢献する分野はそろっています。今後は協定を生かしながら、学生同士、研究者同士の交流を図っていききたいと思います。また先ほどお話しした「福井モデルのものづくり」に際しても、田中先生のおっしゃる「街づくりの発想」で推し進めていきたいですね。

田中 実は、福井とは深いつながりがあり、よく知っているのですが、福井は、「ものづくりを通じた街づくり」を進める好条件がそろっていると感じます。幸福度日本一ですし、教育レベルが高く、自然も豊か。関西とのアクセスもよい。しかも地場産業が盛んで、原子力発電施設というエネルギー源も持っています。その強みをフルに生かすことで、全国どこよりもいろいろな街づくりや社会問題の解決策が構築できるのではないのでしょうか。

掛下 今回の大学間連携、さらには福井の地域、産業界への大きな期待をお話いただきました。では、若い世代へメッセージをいただきますでしょうか。

田中 私たちが若いころは、学問も産業界も欧米がモデルケースとなっていました。しかし現在、日本は国際的に見ても少子高齢化社会の先頭を切っている。「高齢者が住みやすく、子育てしやすい安心・安全な街づくり」を構築する舞台は、ここ日本にあります。しかも、そのモデルケースや社会の諸問題を解決する工学をはじめとする研究は、まだこれからの段階です。それをつくっていくのは、若者たちです。理系や文系といった分野にとらわれないこと、社会に目を向けられること、ぜひ、福井の若い方には、世界に誇れる「福井モデル」をつくり上げてほしいと思います。

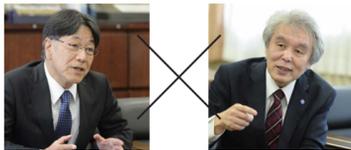
掛下 では、最後に私から若い世代にメッセージを贈らせてほしいと思います。江戸時代の国学者である本居宣長は、「志を高く大きく立ててつとめ学ばせよ」という夢を持ち、目標を立てて学ぶことが大切（▽「徳ます（うます）おこたらざらずにげまふ」ともい）やになったりやめたくなったりして、あきらめなくて続けること、という言葉を残しています。ぜひ、学生時代に自分の目標を立て、その目標をあきらめず継続できる人材を育てていきたい。私たちが、今回の大学間連携をはじめ、地域プロジェクト、海外インターンシップを通じて、そんな教育を目指していきたいです。

田中 ありがとうございます。掛下先生、本日はありがとうございました。

田中 ありがとうございます。掛下先生との対談から、地場産業の技術力に加えて、全国トップの幸福度や自然の豊かさなど福井の強みが再確認できました。その強みを引き出しながら、「福井モデルのものづくり」に貢献する人材を育成することが大学機関の役割です。大阪大学との協定締結を通じた人材育成教育、また県内企業、地域社会との連携をさらに深めながら、「福井モデル」を展望していきたいと思

自動運転車、ロボット、再生医療などの進展には、単一の研究やものづくりだけでは成り立ちません。電気、制御、通信、医学などの専門分野の学びはもちろん大切です。その上で、「自分たちが取り組んでいる研究は少子高齢化などにどう役立つか」という視点が必要なのです。今回の福井工業大学との協定締結を生かしながら、ものづくりを通じた地域社会の問題解決に取り組んでいければと思います。

田中敏宏氏 たなか・としひろ  
大阪大学・大学院工学研究科 研究科長・工学部長、専門は材料物理化学。大阪大学工学部冶金工学科卒業後、同大学大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程修了。工学博士（大阪大学）。1985年同大学工学部助手に就任。学内講師、助教授を経て2002年同大学院教授となり、同大学科学機器リノベーション・工作センター長、異分野イノベーションAMセンター長、工学研究科副研究科長などを歴任。日本鉄鋼協会会長を務めており、2015年8月から現職。



掛下知行 かけした・ともゆき  
福井工業大学学長、北海道生まれ。専門は材料物性。北海道大学理学部理学科卒業後、同大学院理学研究科修士課程修了。大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程中退。1993年同大学工学部助教授に就任。2000年同大学院教授となり、低温センター長、環境イノベーションデザインセンター長、教育研究評議員などを歴任。2011年同大学・大学院工学研究科 工学研究科長・工学部長に就く。日本金属学会会長なども務めた。2018年4月から現職。

対談を終えて  
田中先生との対談から、地場産業の技術力に加えて、全国トップの幸福度や自然の豊かさなど福井の強みが再確認できました。その強みを引き出しながら、「福井モデルのものづくり」に貢献する人材を育成することが大学機関の役割です。大阪大学との協定締結を通じた人材育成教育、また県内企業、地域社会との連携をさらに深めながら、「福井モデル」を展望していきたいと思